

# 人口減少対策に関する 提言・要望

令和4年12月5日

人口減少対策調査研究委員会

本年9月、愛媛県が発表した将来推計人口では、このまま新たな対策を打たなければ、2060年の本県の人口は78.4万人に減少するとともに、65歳以上の高齢者人口の割合も33.2%（2020年）から44.1%（2060年）に増加すると想定されます。

現役世代の割合を増やさなければ、世代間の分断が進む恐れがあるほか、人口と消費が急減する地域に企業は投資を行わないため、生産性の向上も見込まれません。そのため、人口減少のスピードを緩和し、一定程度の人口規模を確保することは、社会経済の活力を維持するうえで重要になります。

当委員会においては、人口減少の要因を分析するための総合的なアンケート調査を実施し、その結果に基づいて、人口減少対策について協議を重ねてきました。

つきましては、愛媛県の人口減少対策につきまして、提言・要望をまとめましたので、今後の施策検討において、活用くださいますようお願い申し上げます。

## 1 総論

### ○若い方が出産・子育てに前向きになれる社会環境の構築

若い世代が、子どもを生み育てることに対して前向きになれる社会環境や雰囲気をつくることが重要であり、出産や子育てを経験した女性がキャリアアップできる環境や、出産・子育てに関する経済的な負担の軽減を図ることが必要と考える。

## 2 10代の方に対する支援

### ○ライフプランの形成支援

子どもたちが、自らが描いた望みどおりの人生を送れるよう、10代のうちから発達段階に応じて、結婚や妊娠、家庭・家族の役割について情報提供を行い、将来のライフイベントについて考える機会を設けることが望ましい。特に妊孕性（妊娠しやすさ）について、加齢とともに低下することや個人差が大きいことなどについて、医学的に正しいとされる情報を男女の隔てなく伝えることが必要と考える。

## 3 若い方に対する支援

### ○若年者の交流機会の創出

当委員会の調査では、県内20～30代の未婚者のうち8割が結婚の希望を持っているにもかかわらず、出会いや結婚に至らないケースが多いことが推察される。若い方が交流できる機会を関係機関が積極的に設けることが必要と考える。

学生時代の多感な時期に、多様な価値観を有する他者の生き方を認め、意見を交わし、交流することは自己の成長につながる。社会人においても、異業種の方と交わることは、自己啓発や人脈形成に資するものである。リアルで人と人が対面する意義を強調したい。

## 4 子育て世代に対する支援

### ○出産・子育てに関する経済的負担の軽減

当委員会の調査では、理想の子ども人数を実現することが難しい理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多い。昭和の時代と異なり、子どもの成長とともに親の賃金給与が右肩上がりで上昇する時代ではないため、子どもが中学、高校、大学に進学した際における経済的な支援の充実も期待される。

## 5 企業・事業者に対する要望

### ○若年者の雇用環境の改善

若い方が働く場所や暮らす場所を決める要因は、どれだけ高い収入が望めるのか、望む仕事や描いた人生が手に入る可能性があるのかといった将来への期待が大きい。

当委員会の調査では、結婚、出産、就職、Uターンにおいて、「収入」が大きな影響を与えていることがわかる。若い方の正規雇用の促進や賃金給与の向上が必要と考える。

### ○ジェンダーギャップの解消

男性のみならず、女性にも県外への進学・就職数以上に県内へ戻ってきてもらうことが転出超過の解消に必要であり、具体的には女性の県内就職を促進することが鍵である。企業・事業者が女性からも選択されるようバージョンアップするためには、賃金水準や待遇、職種(営業職、企画職、研究職等)における性差の解消及び企業・事業者における固定的性別役割分担意識(アンコンシャスバイアス)の解消の徹底が必要と考える。

### ○従業員の初期キャリア形成支援

当委員会の調査では、女性が第1子を希望する年齢は、20代は現在の年齢プラス5～6歳程度、30代は現在の年齢プラス4～5歳となっており、自らの5年後を明確に描くことができれば、結婚・子育てのイメージを抱きやすいことがわかる。このことから、20代のうちに、しっかりとした初期キャリアを形成し、将来の「仕事」や「生活」などに対するビジョンを描くことができるよう従業員教育を充実させることが必要と考える。

## 6 Uターンの促進

### ○温かなコミュニティの形成・心地よい生活イメージの発信

当委員会の調査では、愛媛に戻って暮らす希望がある人のほうが、愛媛に戻ることを希望しない人より、愛媛に愛着を感じている。子どもの頃に、愛媛の素晴らしい食や自然を体感してもらい、シビックプライドを醸成するとともに、温かな人間関係に基づいたコミュニティをつくる必要があると考える。